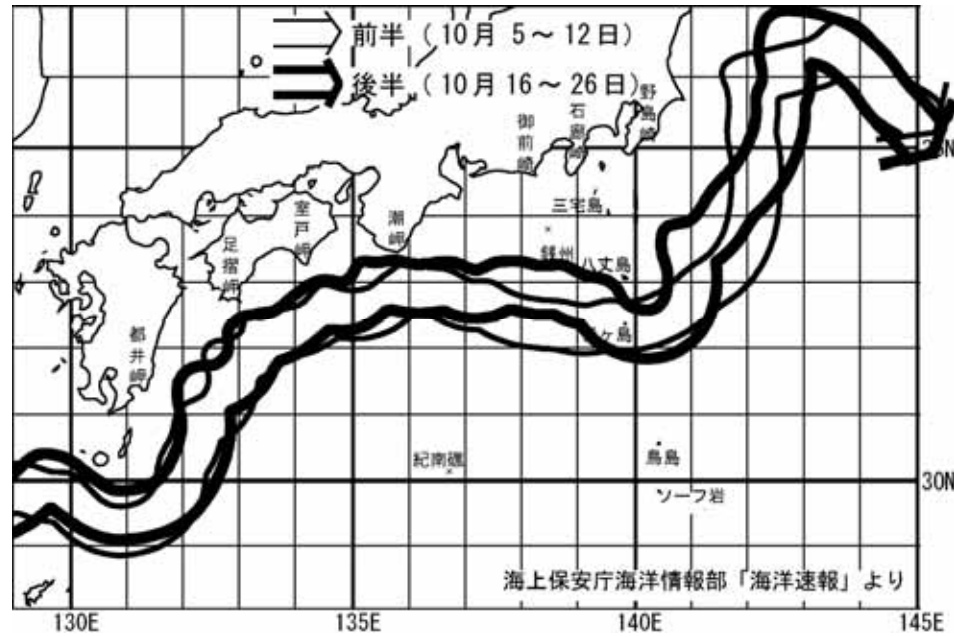


漁海況月報

平成 27 年 10 月 1 日
No. 10 ~ 10 月 31 日
 静岡県水産技術研究所
 (電話 054-627-1815)
 静岡県水産術研究所 伊豆分場
 (電話 0558-22-0835)



10 月定地水温の旬平均値 () (下段は偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津	地頭方
上旬	23.1	21.8	22.7	22.3	22.9	23.1	22.1
	1.0	-1.2	-0.3	-1.3	-0.1	0.6	-0.3
中旬	21.7	21.1	21.7	21.3	21.4	22.0	21.2
	0.2	-1.3	-0.6	-1.6	-1.0	0.3	-0.1
下旬	21.2	20.6	21.3	20.8	20.8	21.0	20.4
	0.5	-1.0	0.0	-1.3	-0.5	0.2	0.3
月	22.0	21.1	21.9	21.4	21.7	22.0	21.2
	0.6	-1.2	-0.3	-1.4	-0.6	0.4	0.0

[黒潮流路]

前半の黒潮は、遠州灘沖の 33°N を南東に進み八丈島の南を通過した後に北東に向かい、房総半島沖へ流れた。後半は、遠州灘沖の 33°N 付近を東に進み、八丈島付近を通過した後、141°E 付近を北東に流れた。

[県下沿岸域]

上旬は、全域で「やや低め」～「やや高め」であった。中、下旬は相模湾側で「やや低め」～「平年並」、駿河湾東部では「低め」～「やや低め」、駿河湾西部では「平年並」であった。

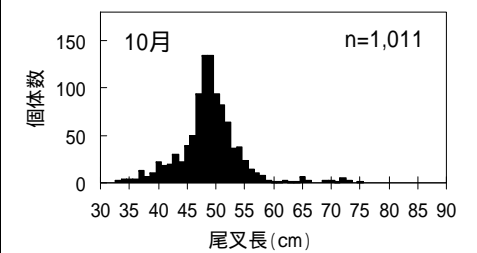
[竿釣カツオ]

10 月の県内主要 5 港 (沼津、清水、焼津、小川、御前崎) における近海カツオ (近海船 + 沿岸船) の水揚量は 40 トンで前年同期の 57% であった。

漁場は 31~34°N、139~140°E の松生場、ハコース、新黒瀬を中心とした伊豆諸島海域で、銘柄「小」(尾叉長 48-49 cm モード) を主体に漁獲した。魚価は 659 円/kg で前月に比べ高値で推移したが、前年同期を下回った。

竿釣り (近海 + 沿岸船) カツオ水揚量 (県内主要 5 港)

期間	水揚量 (トン)	水揚隻数	平均水揚量 / 隻 (トン)	平均単価 (円/kg)
27 年 10 月上旬	15	5	3.1	556
中旬	20	7	2.8	644
下旬	5	7	0.7	1,036
27 年 10 月 計	40	19	2.1	659
26 年 10 月 計	70	38	1.8	690
25 年 10 月 計	39	19	2.1	448



御前崎港における測定結果

[定置網]

伊豆半島東岸大型定置網 7 か統 (伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津) の水揚量は 418 トンで前年の同漁場の水揚量 (290 トン) の 1.44 倍であった。また、1 か統あたりの水揚量は 59.6 トンで前年 (48.3 トン) の 1.23 倍、平年 (昭和 57 ~ 平成 26 年の平均 46.8 トン) の 1.27 倍であった。

魚種別の水揚量は、さば類、ヤマトカマス、マルソウダ、ブリ、アカカマスの順に多かった。

7 か統のうち、さば類は川奈漁場が 40%、次いで北川漁場が 22% を占めた。ヤマトカマスは古網漁場が 41%、次いで伊豆山漁場が 30% を占めた。マルソウダは古網漁場が 59%、次いで赤沢漁場が 15% を占めた。ブリは伊豆山漁場が 36%、古網漁場が 34%、次いで富戸漁場が 11% を占めた。アカカマスは古網漁場が 57%、次いで伊豆山漁場が 36% を占めた。

ブリは銘柄「わかし」「いなだ」が主体で、それぞれブリ全水揚量の 47%、38% を占めた。

なお、特異現象として、古網漁場におけるキハダマグロの漁獲が 5.2 トンと非常に多かった。

漁場別の水揚量では、古網漁場が 95.7 トン (ヤマトカマス、マルソウダ、ゴマサバなど)、川奈漁場が 68.4 トン (さば類、マルソウダなど)、伊豆山漁場が 65.1 トン (ヤマトカマス、ゴマサバなど) の順に多かった。

< 参考表 > 多獲された魚種の漁獲量と主な漁場

魚種	漁獲量 (トン)	前年比	平年比	主な漁場
さば類	142.3	2.3	1.8	川奈、北川、古網、伊豆山
ヤマトカマス	72.6	1.1	3.6	古網、伊豆山、北川
マルソウダ	31.9	1.0	0.8	古網、赤沢、伊豆山
ブリ	18.0	8.9	1.6	伊豆山、古網、富戸
アカカマス	9.6	0.9	1.7	古網、伊豆山

[サバたもすくい棒受網]

小川港にはゴマサバが365トン(前年同月比44%)の水揚げがあり、1隻あたり水揚量は24.4トン(前年同月比62%)であった。1kgあたり平均単価は106円で前月(109円)とほぼ同額であり、前年同期(73円)を上回った。マサバの水揚げは無かった。

ゴマサバは31cmにモードを持つ2歳魚主体であり、三本に漁場が形成された。

小川港 さば類(たもすくい・棒受網漁業)水揚量

期 間	水揚量(トン)		水揚日数	水揚隻数	水揚/隻(トン)		単価(円/kg)		漁 場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
中旬	-	180	3	7	-	25.7	-	81	三本
下旬	-	136	3	6	-	22.7	-	141	三本
27年10月計	-	365	7	15	-	24.4	-	106	三本
26年10月	-	833	10	21	-	39.6	-	73	三本、三宅
25年10月	-	332	6	12	-	27.7	-	76	三本、三宅

* 水揚量は、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため月計と一致しないことがある。

* 表中の「-」は漁獲がなかったことを示す。

[サクラエビ船曳網]

平成27年秋漁は10月29日から漁期が始まったが、10月の出漁は無かった。

[シラス船曳網]

1日1か統当りの水揚量は、駿河湾(静岡、吉田)が327kg、遠州灘(御前崎、福田、舞阪、新居)が383kgであった。主要6港平均の1日1か統当りの水揚量は359kgと前年同期(485kg)の74.0%で、前年同期(過去5か年平均:457kg)の78.6%で前年同期、前年同期をとともに下回った。また、総水揚量は734.4トンで前年同期(1,142.5トン)の64.3%、前年同期(1,004.5トン)の73.1%で前年同期、前年同期をとともに下回った。平均単価は796円/kgで前年同期(735円/kg)、前年同期(603円/kg)をとともに上回った。

シラス水揚量(主要6港)

漁 港	水揚量(トン)	延日数	延統数	平均漁獲量(kg/統)	平均単価(円/kg)
新 居	77.6	14	164	473	640
舞 阪	136.4	11	419	326	658
福 田	152.9	15	386	396	661
御前崎	84.1	19	208	404	827
吉 田	131.7	21	441	299	794
静 岡	151.6	20	425	357	1,121
平成27年10月計	734.4	100	2,083	359	796
平成26年10月計	1,142.5	106	2,354	485	735
平成25年10月計	541.7	73	1,684	322	574

* 各港の数値は四捨五入しているため、各港合計と月計の値は一致しない場合がある。

* 前年同期:過去5か年(平成22~26年)平均値

[まき網]

マイワシの水揚げは小川港で5.4トンと前年同期(172.4トン)の3.1%、沼津港は33.0トンで前年同期(604.4トン)の5.5%、伊東港は124.1トンで前年同期(56.1トン)の221.2%であった。カタクチイワシの水揚げは小川港、沼津港ともに1トン未満、伊東港は12.1トンであった。

伊豆東岸定置網8か統のマイワシは2.6トン(前年同期2.6トン)、カタクチイワシは1トン未満(前年同期1トン未満)の水揚げがあった。

* 前年同期:過去5か年(平成22~26年)平均値

[調査船駿河丸の動向]

10月 1日	公共用水域水質調査	(1日間)
10月 5日 ~ 10月 6日	地先定線観測調査	(2日間)
10月 13日 ~ 10月 14日	さば標識放流調査	(2日間)
10月 17日	小川港さば祭り一般公開	(1日間)
10月 19日 ~ 10月 21日	いわし類卵稚仔分布調査(ユーストネット)	(3日間)
10月 22日 ~ 10月 23日	サクラエビ産卵調査(IKMT)	(2日間)
10月 26日 ~ 10月 27日	ふぐ稚魚調査(TBCネット)	(2日間)

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは..... <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは..... <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星 NOAA の海面水温分布画像と関東・東海海況速報を見ることができます。

